

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に運営理念を掲げている。両フロアの壁に法人の経営理念と行動規範を掲げ申し送り時に唱和し、一人一人が自分の行動に落とし込むようにしている。本社の研修においても理念・行動規範を全社的に統一できるようにしている。	法人理念及び行動規範については玄関、各ユニットのフロアに掲示し、日々の申し送り時に唱和し共有と実践に繋げている。また、法人として職員研修に力を入れており、理念についての理解と共有について繰り返し行うことで支援の質の向上に努めている。家族に対しては利用契約時に理念に即した介護方針について説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム主催の花火大会やもちつき等地域住民が参加できるよう回覧板で周知している。区費の支払い、公民館掃除、ごみ当番にも参加している。月1回ホームの一部を開放しオレンジカフェを開催している。その他にもボランティアの来訪がある。地区のいきいきサロンへもお誘いして頂き参加している。	区費を納め地域の一員として活動している。開設以来、地域福祉について根気よく発信し続けてきた結果、地域の中に溶け込み気軽に挨拶を交わし野菜を持って来訪していただける関係が築かれている。「ホームの花火大会」「オレンジカフェ」「各種ボランティアの来訪」等、新型コロナウイルスの影響ですべての行事が開催できない状況が続いているが、収束後にはまた地域との関わりを更に深め、行事を積極的にに行い、更に参加もする予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サマーチャレンジボランティアや介護の職場体験など生徒や学生のボランティアを積極的に受け入れている。認知症の講演、認知症サポーター・傾聴ボランティア養成講座にお客様にもお手伝いしていただき参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長・自治組合長・民生児童委員・消防団・地域包括支援センター職員・介護相談員などがメンバーになっており、新年会・敬老会・防災訓練にも参加して頂いている。状況報告や事故報告などの他にその時々課題を話し合っている。	基本的に2ヶ月に1回開催している。現状は新型コロナウイルスの影響で会議が開催できない状況が続いている。半年分の資料を参加メンバーに届け、意見・要望等を頂くようにしている。また、現状が長く続く場合、別会場での会議開催について市と相談中である。収束後には新年会、敬老会等の行事にも委員に参加いただく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員が推進会議の他に、新年会・敬老会・消防訓練にも参加していただいている。毎月介護相談員が派遣され、お客様の情報を職員へ伝え、日々のケアに活かされるようにしている。地域包括支援センターと協力し、認知症サポーター養成講座を開催している。	現状「オレンジカフェ」は中止になっているが市介護保険係とは様々な連携を取っている。また、地域包括支援センターには入居状況について相談している。今年度、12月、1月には地域包括支援センターと連携し市の職員向けの認知症サポーター養成講座を開催する予定である。介護認定更新調査は市の調査員が来訪しホームで行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の事故防止委員会を中心に身体拘束0に取り組んでおり、3か月に1度研修にも取り組んでいる。「鍵は掛けない」をホームの方針としており職員全員で見守りが出来るようインカムを導入し、対応している。	日々自由な生活を送っていただく中で拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は朝7時～17時30分まで開錠されている。施設傾向の強い方が若干名いるが所在確認をきめ細かく行い職員が付き添い自由に外へ出るようにしている。また、夏場は玄関先のベンチに腰掛け気分転換を兼ね涼んでいる。家族と相談し、安全確保のためセンサーマット使用の方と人感センサー使用の方が若干名ずついるが、随時検討を必要性が薄い場合は解除している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	5S委員会でスピーチロックについて話し合い目標を決めている。決まった目標は行動規範と共にフロアに掲示し、申し送り時に唱和している。本社の研修でも虐待防止関連法について学んでいる。		

グループホームまゆ更科

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族にお話して成年後継人の申し立てができた。また、職員に対しては合同の研修会と持つ予定でいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定の際は家族会等で説明し、書面でも説明している。また、個々に疑問や不安を伺いご理解・納得してもらっている。解約については病院のケースワーカーとも連携し、対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年4回のまゆ更科日よりブログを通してお客様の日々の様子を伝えている。行事に合わせ年3回の家族会と奉仕作業があり意見や要望を聞く機会にしている。新年会では1年間の思い出をスライドショーで流し好評である。ご本人からは日常会話、表情、仕草から吸い上げるよう努力している。	利用者の平均介護度も3.16と高くなっている中、明確に意思表示の出来る方が若干名という状況になっている。日々共に生活する中で表情やつぶやきなどの変化を情報として共有し、思いを受け止めている。家族の面会も現状は玄関先とリモートでの面会状況が続いているが、スマートフォンの「LINE」通信を利用されている家族が数名いる。合わせて年4回発行される広報誌とブログで利用者の様子をお知らせしている。誕生会は生まれた日に好きな食べ物とプレゼントに合わせた歌を歌いお祝いしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議でアセスメント、行事、委員会の報告、本社からの伝達事項などを行っている。年2回の人事考課があり、リーダーとの面談結果を所長へ繋げ、次長・部長・社長へと繋げている。リーダー2人が日常的に上がった意見を所長に上げ、職員会で話し合っている。	月1回職員会議を行い、4つある委員会からの報告、会社からの連絡事項、カンファレンスなどを行っている。また、会社全体としてウェブ面会をマニュアル化し委員会で報告している。人事考課制度があり、年2回、人事考課シートを用い職員が本人評価を行い、それに対しリーダーが1次評価と個人面談を行い、更に所長が2次評価を行い会社幹部へと上げ、職員の育成にも繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表を用い、管理者、管理部との面談から昇給・賞与等の条件面については、能力・姿勢(仕事への取組み、会社への貢献度)などを考慮している。育児休暇の推奨をしており、個人の事情に応じ柔軟な働きかけが出来るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を推進している。社内の特定施設を研修センターとし、新規採用時には1～3か月研修をしっかりと行っている。既存職員に対して定期的に社内での研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護事業者連絡会の会議や研修に参加し、同業者との交流や情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談の時点でご本人やご家族、ケアマネから情報を頂き要望をお聞きするようになっている。入所前の体験を通じて馴染みの関係づくりや不安の除去に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時は特に時間を設けご本人の状態や抱えている問題などをしっかり聞くようになっている。入居当初はご家族のこまめな来所をお願いしておりその都度情報収集・情報発信をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネや他の事業所と連絡を取りながら対応している。地域包括支援センターからの相談事例でオレンジカフェや体験を通し他のサービスに繋がった例もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とお客様がお互様に感謝しあえる環境を大切にしている。ご本人の力を最大限引き出せるような働きかけや活躍できる場を設けられるようになっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	まゆだよりやホームページにて日々の暮らしが分かるように情報発信している。年1回の家族会奉仕作業がありご家族と共にご本人を支えられるよう心掛けている。電話をかけた時、とりついだりの支援もしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時はご近所や馴染みの方に面会の働きかけをしている。個別外出では馴染みの場所やお店に家族やボランティアの協力を頂き出かけている。個別に有償の傾聴ボランティアの利用により、馴染みの関係が深まっている。	新型コロナウイルスの影響で友人、知人との面会が自粛状態となり続いている。また、馴染みの美容院や買い物等の外出もできない状態が続いており新型コロナウイルスの収束を心待ちにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア固定をせず、気の合うお客様同士と一緒にお茶を飲んだり話ができるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えが必要な方には関連事業所や病院へ情報提供を行い、必要に応じて相談のっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を伝えられる方は半数ほどだが一緒に新聞や広告を見ることにより行きたい場所や食べたい物など聞き取れるよう努めている。ご家族やケアマネからの情報提供や興味関心シート、生活歴から情報を得るようにしている。	家族からお聞きした過去からの生活歴を参考に日々の様子、つぶやき等をノートに記録として残し、日々の状況については月間チェック表に残し毎日確認し、利用者の意向に沿えるよう取り組んでいる。また、お茶の時の飲み物も「お茶」あるいは「コーヒー」などから選んでいただき、入浴時の着替えについても選べるように提案をし、自ら決定していただけるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族・ケアマネや前事業所より情報を収集している。日々の暮らしの「つぶやき」から情報を集め職員が情報共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	大人の学校や日々の関わりの中から出来る事・できそうな事の情報を職員間で共有し、ケアプランに繋げるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日支援チェック表でケアの実施をチェックし、月間チェック表でモニタリングを行っている。ご家族のご意向は更新時にはもちろん日頃からお聞きするようにしている。変更時のサービス内容や注意事項は毎日の申し送り時に確認している。	食事は口から食べ、排泄はトイレで行うという自立支援を基本として取り組んでいる。職員は2~3名の利用者を担当し月間チェック表を用い日々のモニタリングを行い、3ヶ月に1回モニタリング表を作成し家族の要望も聴き入れケアマネジャーと所長が確認し、基本的に3ヶ月に1回の見直しを行っている。状況に変化が見られた時には随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録と月間チェック表を用いている。状況に応じて排泄シートや24時間シートなど適宜取り入れアセスメントしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	パン屋や他の障害者施設からの受け入れをしている。ご本人・ご家族の要望により買い物や自宅や冠婚葬祭への付き添いも実施している。また、内科・歯科と連携し、終末期にも対応している。		

グループホームまゆ更科

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴をはじめ多くのボランティアさんのご協力をいただいている。地域のサロンへ出掛け詩吟を发表或し、コーラスなど音楽を聴きに文化会館へ出掛けしている。地域の理容院に行ける方は行き、難しい方には来ていただいている。区長、民生委員、消防団の方々には運営推進会議のメンバーになっていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医に受診しているのは2名のみである。後の16名の方については月1回定期的に看護師が付き添い協力病院に受診している。受診困難な方は往診をお願いしている。インフルエンザの予防接種については協力医によりホームで実施している。歯科医の往診も1~2か月に1回程度の往診がある。	入居時にかかりつけ医についての希望を確認しているが、現在、入居前からのかかりつけ医利用の方は2若干名で家族がお連れしている。他の利用者はホーム協力医の月1回の往診で対応している。管理者である所長が看護師でもあることから医師との連携、利用者の健康管理に万全を期している。歯科医の往診や歯科衛生士の口腔ケアの来訪も定期的にあり口の健康にも取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには常勤の看護師がいる。状態の変化や情報を随時あげ指示を仰ぐようになっている。夜間も連絡が取れるようオンコール体制を取っている。定期的な体温・血圧測定・状態観察を行い異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行っている。退院に向けてはケースワーカーと連絡を取り合い共働している。主治医からの病状説明時には同席し、退院後の生活がスムーズに行えるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、更新時及び状態の変化時には見取りについての希望を確認し、ターミナル期には家族、医師、看護師、職員で方針やケアについて話し合っている。ご家族・協力医と連携を取りながら最後まで寄り添えるよう努力している。	重度化、終末期に関する指針があり利用契約時に説明している。終末期に到った時には家族、医師、ホームで話し合いの場を持ち、家族の意向を確認の上、看取り同意書にサインを頂き看取り支援に入っている。看取りになった場合にはベトナムホールに出して家族の一員として全員で声を掛け合い最期の時を迎えるようにしている。また、お見送りの際にはお別れの会をホームにて家族と職員で開き、一つの家族として心のかもったひと時を持っている。この1年に4名の方の看取りを行ったという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習は全職員が定期的に順次受講予定である。管理者が普及員であるため現場での指導もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は年3回実施している。昨年6月には運営推進会議を兼ねた消防訓練を実施した。訓練後には反省会を持ち課題を次に生かせるようにしている。台風19号により被災経験を基に水害時のマニュアルを見直した。	昨年の台風19号の際には大変な被害を受け1ヶ月半の長きに渡り避難生活を余儀なくされたが所長を初め職員の冷静な判断と行動により一人の被害者もなく元の生活に戻ることが出来た。年3回防災訓練を行い、そのうち1回は消防署員が参加し、「消火訓練」「通報訓練」「夜間想定」「水害想定」「地震想定」等の訓練を行っている。夜間想定訓練では19時以降、実際に非常灯以外を消灯し行っている。また、昨年の台風19号の被害を受けて「水害マニュアル」「災害マニュアル」の見直しも行った。備蓄は「水」「食料」が3日分準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	5S委員会でスピーチロックについて話し合い目標を決めている。決まった目標は行動規範と共にフロアに掲示し、申し送り時に唱和している。本社の研修でも虐待防止関連法について学んでいる。接遇研修の一環として職員同士がチェック表を用いチェックし合っている。	接遇チェック票を基に5S委員会で尊厳について話し合い、職員同士毎日チェック表の中身を確認し合い、利用者の訴えに気づき声を掛けやすいようにゆっくり動くことを心掛けている。毎月の接遇目標を申し送りで唱和し、意識を高め取り組んでいる。入室の際にはノックと「失礼します」の声掛けを忘れずに、また、呼び掛けは本人の希望を確認し、苗字か名前に「さん」付けてお呼びしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ自己選択、自己決定できる場面を持つようにしている。お茶やお菓子を選んだり、訪問販売や外出時の食べたいもの、洋服など選べるような支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々に応じ起床時間・食事時間・場所など柔軟に対応している。ご家族・ボランティアさんも借りて外出や話の傾聴ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	敬老会・新年会の行事、外出時には余所行きの服を着たりおしゃれができるよう支援している。定期的に馴染みの理髪店に行き髪を染めたりおしゃれを楽しめるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在昼食・夕食は有償ボランティアさんが入っている。家族や地域の方より差し入れがあり新鮮で旬なものを献立に取り入れている。12月の餅つきには推進委員やご家族、法人内の他施設からの参加もある。準備や片付け(下膳・洗い物)等自分の役割として行っている方もいる。	昼食と夕食は調理専門スタッフ2名により一汁三菜を基本とし、冷蔵庫の中の食材を見て献立を決め、昼食に肉を出したら夜は和食に煮物を付けるなど、ダブらないよう意識し提供している。利用者が調理をしている所を見に来て匂いを感じたり盛り付けを見て料理の雰囲気を感じ、温かい出来立てを味わい楽しい食事の時間を過ごしている。また、行事の際にも調理スタッフが趣を変え、季節に合わせた家庭料理を提供し喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々食事量のチェックを行っている。状態によりロミやゼリーを活用し、脱水に注意している。又、ご家族にも協力してもらい、食事水分量が確保できるよう個別に支援している。入居時・状態変化時はセンター方式の生活リズムパターンシートを用い水分量のチェックを行い脱水に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはその方に応じた方法・用品で行っている。義歯は洗浄剤を用い定期的に消毒している。又、定期的に歯科医の訪問診療があり歯科衛生士からのアドバイスも受けられる。		

グループホームまゆ更科

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間は9名の方がオムツを使用しているが日中はオムツ0に取り組んでいる。入浴排泄委員会で排泄シートの見直しを適宜行い、パット類・介助方法を見直し日中は全員トイレでの排泄ができるよう補助具を使用したり安全面でも配慮している。	排泄の自立支援に力を入れ取り組んでいる。トイレでの排泄にこだわり、日中はかなり多くの利用者が布パンツとパット使用で、若干名の利用者がリハビリパンツとパット使用という状況である。日中は全利用者に対してトイレ誘導を行いトイレでの排泄に心掛けている。排泄表を用い各利用者のパターンを把握し、起床時、おやつ前後、食事前、就寝前などに早め早めの定時誘導を行いスムーズな排泄に繋げている。排便促進を図るべく起床時に冷たい牛乳を取り、毎朝乳酸飲料を飲み、水分を多めに摂取し「ごぼう先生」の体操で体を動かすなど、工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	年齢的なものや内服薬の副作用により、緩下剤を服用している方が多い。日々チェック表で排便の有無の確認を行い、個々の対応を主治医と相談しながら行っている。できるだけ自然排便を促せるよう毎朝ヤクルトの提供や食物繊維を摂ったり、水分量にも注意している。個別にヨーグルトを取っている人もいる。便秘がちな方は個別にセンター方式の生活リズムパターンシート適宜活用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴排泄委員会で毎月1週間を入浴週間とし、花や季節の飾りつけをしたり、菖蒲やゆず、リンゴ湯等季節感を感じたり楽しめるよう工夫している。少なくとも3日に1回は入れるよう配慮している。利用者の中には毎日入浴する方もいる。入浴シートの見直しを定期的に行い、安全に入浴できるよう努めている。	自立されている方は若干名で、一部介助の方が半数、全介助の方が三分の一強という状況である。基本的には週3回入浴を行い、希望があれば毎日でも入浴が可能で、就寝前に毎日入浴されている利用者もいる。現在は入浴拒否の方はおらず、全利用者週3回の入浴を楽しんでいる。月1回入浴週間を設け、7月には脱衣場に夏まつりの飾りをし風呂上りには好きなドリンクを飲み夏の雰囲気を楽しみ、9月にはお月見の飾り付けをし「月見風呂」を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団かベッドかは入居前と同じスタイルにしている。安全面の配慮から床や畳での対応も適宜行っている。状況に応じてフローアのベッド・畳・ソファーに誘導し、休息とれるようにしている。冬季には電気行火・毛布など使用している方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬については薬の説明書をファイリングし、いつでも見れるようにしてある。内服方法の統一が図れるよう薬の飲み方一覧表を作成し、それに基づき内服してもらっている。主治医やかかりつけ薬局とも連携し適宜相談できるような体制を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望時や行事の時などはお酒の提供もしている。社会貢献の場として地域へ認知症の啓発活動に出かけている方もいる。家事参加が難しい方でもできることを見つけ参加できるように支援している。		

グループホームまゆ更科

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年2回春と秋に外出を実施している。行きたいところや馴染みの場所をお聞きし、ご家族のご協力をいただき実施した。介護相談員さんが所属している合唱団や協力病院の医師が所属している管弦楽団の定期演奏会には毎年招待され見に行っている。	外出時、自力歩行の方が若干名で他の方は何らかの介助が必要な状況となっている。新型コロナウイルスの影響で外出の自粛状態が続いているがホームの周りを散歩したり近くの中央公園までお花見に出かけたりしている。年間の行事計画があり、初詣からお花見、菊花展見学等、数多く計画されているが現状は難しい状況にあり新型コロナウイルスの収束が待たれるところである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的にパン屋さんや障害者就労施設から訪問販売が来ている。買いたいものを選び支払いのできる方にはしてもらっている。ご家族と買い物に出かける方もいる。近くのコンビニへ個別の買い物お連れすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	掛けたいときには随時対応し、かかってきた際には話せるように支援している。LINEのビデオ通話を取り入れ実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーの行き来は自由にできる。畳コーナーがあり仲間同士で炬燵にあたりTVを観たりお茶を飲んだりゆっくり過ごすことができる。キッチン是对面式になっており家事参加ができやすい環境にある。トイレは各ユニット3か所あり車いすの方も安全に使用できるよう介助方法を工夫したり、排泄補助具も利用している。浴室は南向きに設置されており3面より介助ができる半埋め込み式の浴槽が各ユニットに2つずつあり、ゆったりと入浴できる。	事務所を中心に両ユニットが広がり利用者は自由に行き来できるようになっている。ホールの一角には畳のスペースがあり暖炉の温かさで寛げるようになっている。壁には季節の飾り付けがされ、訪問時はハロウィンの飾りが施されていて季節を感じる事が出来た。また、一角には神棚も設置され家庭的な雰囲気を感じられる。広いホールにはゆったりとした食事テーブルとソファが置かれ、テレビを見たり体操をしたりして寛いでいる利用者の姿を見ることができた。また、浴室は充分な広さの中、浴槽が2ヶ所備え付けられ、2人で同時に入浴されることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにはソファがあり気の合う仲間同士で自由に過ごしている。席の配慮をしたり、お茶や食事を他のフロアーですることもある。玄関やスタッフルーム、使用していないときの脱衣室など好きな場所で過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ馴染みのものや大切にしている物をお持ちいただいている。仏壇や位牌を持ってきていただきお参りできるよう支援している。家族の写真や自身の作品を飾り自分の居室としてゆっくり過ごせるよう工夫している。	各居室にはクローゼットと洗面台が備え付けられ、暮らし易い環境が整備されている。持ち込みは自由で、家族と相談し使い慣れたタンス等の家具や仏壇等が持ち込まれている。また、家族の写真等に囲まれ思い思いの自由な生活を送っていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室など目的の場所がわかりやすいようにしている。夜間も照明を工夫し、トイレの場所がわかりやすいようにしている。状態の変化に伴い福祉用具の検討・導入により安全面にも配慮している。		